

方部別の住民懇談会を 4会場で開催しました



伊達市保原市民センターでの懇談会（4月12日）

4月中旬、方部別の住民懇談会を、伊達市・南相馬市・福島市飯野町・福島市黒岩の4か所で開催しました。この懇談会は、復興事業の現状や、生活再建に役立つ支援事業についてお知らせし、村民の皆さんの意見を直接受け取るために、国・県との共催で開催したものです。村、村議会、県、国の機関の代表などが出席し、参加者の質問や提案を受けて、意見交換も行いました。4回で合わせて119人の参加をいただき、関係機関と情報・課題を共有する機会となりました。

大切な人にあてた979通 10年後の未来へ届けます

村制施行60周年を記念して村が募集した「10年後への手紙」。村民の皆さんはもとより、村外からも多数のご応募をいただき、ありがとうございました。1月末の締め切り以降も、「間に合えばお願いします」と届く手紙を追加して、現在の総数は979通に。いよいよ保管を開始する運びとなりました。前は、思いもよらない避難の中での配達となりましたが、これから始まる10年の後には、皆の苦労や努力が報われた、明るい未来が待っていますよう、願いをこめて保管します。



手紙は大切に保管し10年後の未来に配達されます

心にしみる歌をありがとう 千昌夫さんのコンサート



握手を交わして客席を回りながら迫力の熱唱

4月16日、交流センター「ふれ愛館」で、自主文化事業「千昌夫 お帰りなさいコンサート」を開催しました。国民的ヒット曲の数々を、千昌夫さんの生の歌声で味わおうと、当日は350人あまりが会場を埋め、開演を待ちました。コンサートでは、千さんが、「北国の春」や「星影のワルツ」などの名曲を次々に熱唱。また、曲と曲の間には、親しく来場者に語りかけ、楽しいおしゃべりで会場を盛り上げました。心にしみる歌と、大笑いのトークを、来場者は心からの笑顔で楽しんでいました。

避難指示解除によせて 復興事業の企業体から寄贈

村内で除染事業などの復興事業に携わる大成・西武・本間あおみ共同企業体から、のぼり旗とプランターの寄贈がありました。村の6年ぶりの避難指示解除に思いを寄せていただいたもので、解除に合わせて用意をしてくださいました。鮮やかな黄色の地に「おかげさまで」「避難指示解除です」と書かれたのぼり旗は、県道原町川俣線沿いに、100本が設置されました。パンジーなど色とりどりの花がにぎやかに咲くプランターは、役場庁舎の前を彩っています。



役場前のプランターでは春の花がゆれています

大火山ツツジ自然公園に サクラやハナモモを植樹



笑顔の参加者。花木と山ツツジとの競演が楽しみ

4月18日、村議会の議員OB会と共に、きつつきの会（川俣自治会）の有志、草刈りを手伝う東京電力職員らが、大火山の山ツツジの自生地、山桜と花桃、合わせて18本を植樹しました。山ツツジの群生が広がるこのエリアは、議員OB会が、平成16年から整備を続けていて、今年5月14日に散策ツアーも開催します。植樹は毎年継続する予定で、関係者は「自分で花木を植えてみたい人は相談を」と活動の広がりにも期待を寄せていました。問 きつつきの会 ☎024-566-3370

新聞に載せた感謝広告に エールが寄せられています

村では、長泥地区を除く村内の避難指示が解除された3月31日に合わせて、県内2紙、全国3紙の新聞に、感謝のメッセージ広告を出しました。デザインは4パターンで、県内紙にはふるさと再生にかけの思いを、全国紙には支援への感謝を表し、避難解除の節目を報告しました。このメッセージに対して、共感や村民への励ましなど、県内外から手紙やメールが寄せられています。声援からまた力をいただいで、それぞれの復興にさらに前向きに取り組んでいきましょう。



県内紙に掲載した感謝広告（左：福島民報新聞、右：福島民友新聞）と、村に届いた励ましの手紙